

高校生アンケートの結果の概要について

1. 高校生アンケートの調査の概要

(1) 高校生アンケート

調査対象	市内9高等学校の学生	
実施時期	令和3年8月25日～令和3年11月16日	
配布・回収方法	インターネットアンケート：4校 紙によるアンケート：5校	
回収結果	回答総数	2,074件
	インターネット	74件
	紙	2,000件

調査項目	結果概要	アンケート結果の考察
問1 居住地	・市内、市外から通学している割合は、約半数ずつであった。	—
問2 地球温暖化についてどこで知ったか（複数回答）	・「学校」が79%で最も多く、次いで「テレビやラジオ」が64%であった。	・地球温暖化について、学校で知ったとの回答が多く、授業で学ぶことで認知度の向上につながっているため、学校での啓発をさらに促進する必要がある。
問3 地球温暖化による影響が拡大していると思うか	・94%の高校生が地球温暖化の影響が拡大していると感じているという結果となった。	・ほとんどの高校生が地球温暖化による影響が拡大していると感じており、また、特に、異常気象などにより、その影響を感じていることが分かった。また、同様に、ほとんどの高校生が、地球温暖化対策が必要だと感じており、次期計画においては、「緩和策」とともに、「適応策」についても取り組みを進めていく必要がある。
問4 地球温暖化による影響が拡大していると思う理由（複数回答）	・「夏は猛暑日が増えたこと」が89%、「集中豪雨（ゲリラ豪雨）が発生しやすくなり、災害が増えたこと」が52%と高かった。 ・自由回答では北極・南極の氷の融解に関する内容が多かった。	
問5 地球温暖化対策は必要だと思うか	・地球温暖化対策の必要性について、「とても必要だと思う」が63%、「ある程度必要だと思う」が34%で、これらを合わせると、97%となった。	

(つづき)

調査項目	結果概要	アンケート結果の考察
問6 日常的に行っている地球温暖化防止の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から取り組んでいることは、「マイボトル（水筒）の持参」が64%で最も多く、次いで「マイバッグの持参」が55%となった。 ・一方で、83%の高校生が「緑の保全活動」に取り組んだことがなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関わるマイボトルなどは多く取り組まれているが、一方で、「緑の保全活動」や「身近な人との話し合い」などはあまり取り組みがされておらず、情報提供や普及啓発を強化していく必要がある。
問7 国のゼロ宣言による取り組み姿勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・5%が「これまでも取り組んでおり、より取り組もうという姿勢に変わった」、17%が「現在取り組んでおり、継続して取り組む」、36%が「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」と回答した。一方で、28%は「宣言を知らず」、14%は「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」と回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の宣言を受けて、「今後取り組んでみようという姿勢に変わった」と回答する割合が多いことから、市の計画についても、方針や目標について、広く知ってもらう必要がある。
問8 地球温暖化防止に関連する言葉の認知状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGs」については、「内容を知っている」の割合が70%と他の言葉と比べて突出して高かった。 ・「枚方市2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」については、「聞いたことがない」の割合が67%と最も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・枚方市の取り組みについて、周知があまり進んでおらず、さらなる普及啓発を行う必要がある。
問9 「地球温暖化対策」に関連する情報を取得するための手法	<ul style="list-style-type: none"> ・「活用している」割合が最も高かったのは「テレビやラジオ」で65%、次いで「学校の授業や教科書」が63%、「SNS」が44%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問8で、「SDGs」の認知度が高いのは、学校で学んだことが理由として考えられることから、授業でSDGsを学ぶときに、温暖化対策について学習できるよう工夫が必要である。
問10 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策（2つまで）	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校での環境教育」が24%で最も高く、次いで「豪雨災害などの気候変動への適応」が16%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市に対して、環境教育を期待している高校生が多く、地球温暖化に関するワークショップを引き続き、開催するなど、さらなる環境教育・環境学習の場を創出していく必要がある。

2. 市民アンケートと高校生アンケートにおける共通質問事項の比較

調査項目	比較概要	比較結果の考察
(1) 地球温暖化による影響が拡大していると思うか	・市民、高校生ともに「拡大していると思う」と回答した割合は90%以上であった。	・市民、高校生で大きな違いは見られなかった。
(2) 地球温暖化による影響が拡大していると思う理由	・市民、高校生ともに「夏は猛暑日が増えたこと」が最も多かった。	
(3) 地球温暖化対策は必要だと思うか	・市民、高校生ともに「とても必要だと思う」、「ある程度必要だと思う」を併せて90%以上が「必要だと思う」としていた。	
(4) 日常的に行っている地球温暖化防止の取り組み	・市民、高校生ともに日常生活において取り組むことはできるものの、環境イベント等の自ら参加し取り組むことは難しいことが分かった。	
(5) 国のゼロ宣言による取り組み姿勢の変化	・市民、高校生ともに「今後取り組む」が最も多かった。 ・「宣言を知らなかった」との回答した割合は、市民の11%に対して、高校生は28%と多かった。	・高校生など若い世代に対して、より効果的な周知ができるよう検討する必要がある。
(6) 地球温暖化防止に関連する言葉の認知状況	・「内容を知っている」と回答した割合が最も高かったのは、市民、高校生ともに「SDGs」であったが、市民37%、高校生70%と認知度に差があった。	・高校生では、学校で「SDGs」について学んだことが、認知度向上につながっていると考えられる。
(7) 「地球温暖化対策」に関連する情報を取得するための手法	・「テレビやラジオ」との回答が共通して最も多く、次いで市民では、「新聞、雑誌」「広報ひらかた」、高校生では「学校の授業や教科書」「SNS」と違いが見られた。	・地球温暖化対策に関連する情報発信に関しては、世代に合わせたツールを用いるとともに、高校生には学校での学びを通じて、効果的な周知につなげる必要がある。
(8) 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策	・高校生では「学校での環境教育」が最も多く、環境学習への高い意欲が伺える。 ・高校生及び市民で「豪雨災害などの気候変動への適応」の回答が多く、世代問わず重要な対策だと言える。	・次期計画においては、「適応策」についても取り組みを進めていくとともに、高校生においては、環境問題について知りたいという意欲が高いため、正しい知識を学ぶ機会づくりが必要である。